

第二十一回 帝國議會 貴族院議事速記録第十三號

〔左ノ報告書ハ朗讀ヲ經ザルモ參照ノタメ茲ニ載錄ス以下之ニ倣フ〕
一去ル十五日可決シタル左ノ政府提出案ハ即日内閣總理大臣ヲ經由シテ裁
可ナ奏請シ同時ニ可決ノ旨ナ衆議院ニ通知セリ

明治三十八年二月十七日(金曜日)

午前十時十二分開議

議事日程 第十三號 明治三十八年二月十七日

午前十時開議

第一 鐵道抵當法案(政府提出)

第一讀會ノ續(特別委員長報告)

第二 遠洋漁業獎勵法改正法律案(議院提出)

第一讀會ノ續(特別委員長報告)

第三 明治三十七年勅令第二百二十五號承諾ヲ求ムルノ件(政府提出)

會議(特別委員長報告)

俘虜處罰ニ關スル法律案(衆議院提出)

第一讀會ノ續(特別委員長報告)

第四 出) 裁判所構成法中改正法律案(衆議院提出)

第一讀會

第五 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

第一讀會ノ續(特別委員長報告)

第六 戰時補助船舶獎勵ニ關スル法律案(君外九名提出)

第一讀會

第七 戰時補助船舶獎勵ニ關スル法律案(君外九名提出)

第一讀會ノ續(特別委員長報告)

第八 故坂上田村廢旌表ニ關スル建議案(道君提出)

會議

○議長(公爵德川家達君) 是ヨリ報告ヲ致シマス

〔小原書記官朗讀〕

一昨十六日寺内陸軍大臣ヨリ左ノ通牒ヲ受領セリ

貴院カ松村陸軍中將ノ薨去ニ對スル深厚ナル哀悼ノ決議ハ早速同遺族ヘ
傳達致候處遺族一同感泣拜謝罷在候右御通知旁御挨拶申上候敬具

明治三十八年二月十六日

陸軍大臣寺内正毅

貴族院議長公爵德川家達殿

○議長(公爵德川家達君) 他ニモ御報告ノ件ガゴザイマスガ、是ハ省略イタ
シマシテ速記錄ニ掲ゲルコトニ致シマス、御異議ハゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼ブ者アリ〕

○議長(公爵德川家達君) 然ラバ左様致シマス

「左ノ報告書ハ朗讀ヲ經ザルモ參照ノタメ茲ニ載錄ス以下之ニ倣フ」
砂糖消費稅法中改正法律案
質屋取締法中改正法律案
輸入原料砂糖戻稅法中改正法律案
古物商取締法中改正法律案
擔保附社債信託法案
日本興業銀行法中改正法律案
一同一日左ノ衆議院提出案ニ對シ第二讀會ヲ開カサルコトヲ議決セル旨ナ衆
議院ニ通知セリ

市制町村制中改正法律案

一同一日議決シタル松村陸軍中將ニ對スル哀悼ノ決議ニ付其ノ趣旨ヲ遺族ニ
傳致スル爲該決議文ナ陸軍大臣ニ送致セリ

一同一日特別委員會ニ於テ當選シタル委員長及副委員長ノ氏名左ノ如シ
北海道一級町村及二級町村ヲシテ租稅外國庫歲入ヲ徵收セシムル法律案

特別委員會

一同一日議決シタル松村陸軍中將ニ對スル哀悼ノ決議ニ付其ノ趣旨ヲ遺族ニ
傳致スル爲該決議文ナ陸軍大臣ニ送致セリ

一同一日特別委員會ニ於テ當選シタル委員長及副委員長ノ氏名左ノ如シ
北海道一級町村及二級町村ヲシテ租稅外國庫歲入ヲ徵收セシムル法律案

特別委員會

一同一日議決シタル松村陸軍中將ニ對スル哀悼ノ決議ニ付其ノ趣旨ヲ遺族ニ
傳致スル爲該決議文ナ陸軍大臣ニ送致セリ

俘虜處罰ニ關スル法律案可決報告書

遠洋漁業獎勵法改正法律案可決報告書

一昨十六日特別委員會ニ於テ當選シタル委員長及副委員長ノ氏名左ノ如シ

戰時補助船舶獎勵ニ關スル法律案特別委員會

委員長 伯爵德川達孝君 副委員長 子爵堀田正養君

所得稅法中改正法律案特別委員會

委員長 子爵山口弘達君 副委員長 男爵若王子文健君

民事訴訟法中改正法律案、刑事訴訟法中改正法律案特別委員會

委員長 奥山政敬君 副委員長 子爵本莊壽巨君

一同日特別委員長ヨリ左ノ報告書ヲ提出セリ

戰時補助船舶獎勵ニ關スル法律案可決報告書

一同日衆議院ヨリ左ノ政府提出案ヲ受領セリ

裁判所管轄區域變更ニ關スル法律案

一同日衆議院ヨリ左ノ政府提出案ニ付同意奏上セル旨ノ

通牒ヲ受領セリ

耕地整理法中改正法律案

明治三十年法律第十三號中改正法律案

船舶法中改正法律案

船舶職員法中改正法律案

○議長(公爵德川家達君) 是ヨリ本日ノ議事日程ニ移リマス、議事日程第一、

鐵道抵當法案、第一讀會ノ續、特別委員長報告、特別委員長會我子爵

鐵道抵當法案
右別冊ノ通り修正セリ依テ及報告候也

明治三十八年二月十五日

右特別委員長
子爵曾我祐準

貴族院議長公爵德川家達殿
鐵道抵當法

第一章 總則
第一條 本法ニ於テ會社ト稱スルハ私設鐵道株式會社ヲ謂フ

第二條 會社ハ抵當權ノ目的ト爲ス爲鐵道ノ全部又ハ一部ニ付鐵道財團ヲ設クルコトヲ得

鐵道財團ハ之ヲ一箇ノ物ト看做ス
鐵道財團ハ抵當權ノ消滅ニ因リテ消滅ス

第三條 鐵道財團ハ左ニ掲タルモノニシテ鐵道財團ノ所有者ニ屬スルモノヲ以テ之ヲ組成ス

一 鐵道線路、其ノ他ノ鐵道用地及其ノ上ニ存スル工作物並之ニ屬スル器具機械

二 工場、倉庫、發電所、變壓所、配電所、事務所、舍宅及其ノ敷地並之ニ屬スル器具機械

三 鐵道用水ニ關スル工作物及其ノ敷地並之ニ屬スル器具機械

四 鐵道用通信、信號又ハ送電ニ要スル工作物及其ノ敷地並之ニ屬スル器具機械

五 前四號ニ掲タル工作物ヲ所有シ又ハ使用スル爲他人ノ不動產ノ上ニ存スル地上權、登記シタル賃借權及前四號ニ掲タル土地ノ爲ニ存スル地役權

六 車輛及之ニ屬スル器具機械

七 保線ニ要スル材料及器具機械

第四條 鐵道財團ハ所有權及抵當權以外ノ物權又ハ差押、假差押若ハ假處分ノ目的ト爲スコトヲ得ス

鐵道財團ニ屬スルモノハ所有權以外ノ物權又ハ差押、假差押若ハ假處分ノ目的ト爲スコトヲ得ス

鐵道財團ニ屬スヘキモノニシテ所有權以外ノ物權又ハ差押、假差押若ハ假處分ノ目的タルトキ又ハ鐵道財團ニ屬スヘキ不動產ニシテ賃借權ノ目的タルトキハ會社ハ鐵道財團ヲ設クルコトヲ得ス但シ不動產ニ關スル權利ニ付其ノ登記ナキトキハ此ノ限り在ラス

第五條 抵當權ノ設定又ハ變更ハ總株金四分ノ一以上ノ拂込アリタル後定款變更ト同一方法ノ決議ヲ經主務官廳ノ認可ヲ受クルニ因リテ其ノ效力

ノ生ス

第六條 鐵道財團ヲ抵當ト爲ス債務ノ額ハ社債ノ額ト合セテ總株金拂込額
ヲ超ユルコトナ得ス但シ舊債償還ノ爲ニスル場合ニ於テハ舊債務ノ額ハ
之ヲ算入セス

第七條 抵當權設定ノ認可ヲ申請スルニハ抵當證書及鐵道財團目錄ヲ差出
スヘシ但シ擔保附社債ヲ發行スル場合ニ在リテハ信託證書ヲ以テ抵當證
書ニ代フ

抵當證書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 鐵道財團ニ屬スル線路ノ表示

二 抵當權者、債務者及鐵道財團ノ所有者ノ名稱及住所

三 抵當權ノ順位

四 債權額及償還ノ方法並期限

五 利率及利息支拂ノ方法並期限

抵當證書又ハ信託證書ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生スヘキ契約ハ主務官

廳ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

第八條 抵當權ノ設定認可ノ申請アリタルトキハ主務官廳ハ直ニ官報ヲ以
テ鐵道財團ニ屬スヘキモノニ關シ第四條第三項ノ權利ヲ有スル者又ハ差
押、假差押若ハ假處分ノ債權者ハ一定ノ期間内ニ申出ツヘキ旨ヲ公告ス
ヘシ但シ其ノ期間ハ一箇月ナ下ルコトナ得ス

主務官廳ハ抵當權ノ設定認可ノ申請前ニ於テモ會社ノ申請ニ因リ豫メ前
項ノ公告ヲ爲スコトナ得此ノ場合ニ於テ公告後六箇月内ニ抵當權設定認
可ノ申請ナキトキハ公告ハ其ノ效力ヲ失フ

會社カ前項ノ申請ヲ爲ストキハ鐵道財團目錄ヲ差出スヘシ

第九條 前條第二項ニ依ル公告ヲ爲シタルトキ又ハ抵當權ノ設定認可ノ申
請ヲ爲シタルトキハ鐵道財團ニ屬スヘキモノハ之ヲ讓渡スコトナ得ス

第十條 第八條ノ公告アリタル後ハ同條第二項ニ依ル公告カ效力ヲ失ハサ
ル間、抵當權ノ設定認可ノ申請カ却下セラレサル間及其ノ認可カ效力ヲ
失ハサル間ハ鐵道財團ニ屬スヘキ不動產ニ關スル權利ニ付競落ヲ許ス決
定ヲ爲スコトナ得ス

前項ノ規定ハ動產ニ對スル競賣ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十一條 抵當權設定ノ認可アリタルトキハ其ノ鐵道ニ關スルモノニシテ

第三條 ニ掲タルモノハ當然鐵道財團ニ屬ス其ノ抵當權設定後新ニ鐵道
財團ノ所有者ニ屬シタルモノ亦同シ

前項ニ掲タルモノニ關シ第四條第三項ノ權利アルトキハ不動產ニ關ス
ルモノノ登記ハ其ノ效力ヲ失ヒ動產ニ關スルモノハ存セサルモノト看做
シ差押、假差押若ハ假處分ハ其ノ效力ヲ失フ但シ抵當權設定ノ認可カ效
力ヲ失ヒタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ場合ニ於テハ第四條第三項ノ權利ヲ有スル者又ハ差押、假差押若
ハ假處分ノ債權者ハ鐵道財團ノ所有者ニ對シ損害賠償ノ請求ヲ爲スコト
ヲ得但シ第八條ノ公告アリタルモノニ付期間内ニ申出ヲ爲ササル權利者
並期間經過後ニ於テ登記ノ申請ヲ爲シタル者、動產ニ關シ所有權以外ノ
物權ヲ取得シタル者又ハ差押、假差押若ハ假處分ヲ爲シタル者ハ此ノ限
ニ在ラス

第十二條 第八條第二項ニ依ル公告カ效力ヲ失ヒタルトキ、抵當權ノ設定
力認可セラレサルトキ又ハ其ノ認可カ效力ヲ失ヒタルトキハ主務官廳ハ
直ニ官報ヲ以テ其ノ旨ヲ公告スヘシ

第十三條 抵當權設定ノ認可アリタル後二箇月内ニ其ノ登錄ノ申請ナキト
キハ認可ハ其ノ效力ヲ失フ

第十四條 抵當權ハ債權成立以前ニ於テモ其ノ效力ヲ生ス

第十五條 抵當權ノ得喪若ハ變更又ハ鐵道財團ノ所有權ノ移轉ハ登錄ヲ爲
スニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトナ得ス

第十六條 數箇ノ債權ヲ擔保スル爲同一ノ鐵道財團ニ付抵當權ヲ設定シタ
ルトキハ其ノ抵當權ノ順位ハ登錄ノ前後ニ依ル

第十七條 抵當權者ハ鐵道財團ニ付他ノ債權者ニ先チテ自己ノ債權ノ辨
識ヲ受クルコトナ得

第十八條 抵當權者ハ債權ノ全部ノ辨識ヲ受クル迄ハ鐵道財團ノ全部ニ付

第十九條 抵當權ハ鐵道財團又ハ之ニ屬スルモノノ讓渡、貸付、滅失又ハ
毀損ニ因リテ會社カ受クヘキ金錢其ノ他ノ物ニ對シテモ之ヲ行フコトナ
得但シ抵當權者ハ其ノ拂渡又ハ引渡前ニ差押ヲ爲スコトナ要ス

第二十條 會社カ鐵道財團ヲ讓渡シ、貸付シ若ハ抵當權ヲ爲シ、鐵道財團ニ
關スル營業ノ管理委託ヲ爲シ、其ノ線路ヲ變更シ又ハ其ノ線路ノ全部若

ハ一部ニ付營業ヲ休止セムトスルトキ又ハ鐵道財團ニ屬スルモノノ處分セムトスルトキハ抵當權者ニ對シ異議アラハ一定ノ期間内ニ之ヲ述フヘキ旨ヲ催告スヘシ但シ其ノ期間ハ二箇月ヲ下ルコトヲ得ス

抵當權者カ前項ノ期間内ニ異議ヲ述ヘタルトキハ會社ハ主務官廳ノ裁定ヲ求ムヘシ此ノ裁定ハ終局トス

抵當權者カ外國ニ住所ヲ有スル場合ニ於テハ第一項ノ期間ハ四箇月ヲ下ルコトヲ得ス

本條ノ規定ハ抵當權者カ豫メ同意ヲ與ヘタル場合ニハ之ヲ適用セス

第二十一條 會社カ鐵道財團ニ關スル工事方法ノ變更ニ付認可ヲ申請シタル場合ニ於テ其ノ變更カ鐵道財團ノ價額ヲ著シク減スヘキ虞アリト認ムルトキハ主務官廳ハ會社ナシテ抵當權者ニ對シ異議アラハ之ヲ述フヘキ旨ヲ催告セシムヘシ

前條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十二條 免許ノ失效又ハ取消ノ場合ニ於テハ抵當權者ハ其ノ權利ヲ實行スルコトヲ得

前項ニ依リ抵當權者實行セムトスルトキハ抵當權者ハ免許ノ失效又ハ取消ノ日ヨリ六箇月内ニ其ノ手續ヲ爲スヘシ

免許ハ前項ノ期間及抵當權實行ノ終了ニ至ル迄仍存續スルモノト看做ス

第二十三條 債權者カ同一ノ債權ノ擔保トシテ數箇ノ鐵道財團ノ上ニ抵當權ヲ有スル場合ニ於テ同時ニ其ノ代價ヲ配當スヘキトキハ其ノ各鐵道財團ノ價額ニ準シテ其ノ債權ノ負擔ヲ分ツ

或鐵道財團ノ代價ノミチ配當スヘキトキハ抵當權者ハ其ノ代價ニ付債權ノ全部ノ辨濟ヲ受クルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ次ノ順位ニ在ル抵當權者ハ前項ノ規定ニ從ヒ右ノ抵當權者カ他ノ鐵道財團ニ付辨濟ヲ受クヘキ

金額ニ満ツル迄之ニ代位シテ抵當權ヲ行フコトヲ得

第二十四條 前條ノ規定ニ從ヒ代位ニ因リテ抵當權ヲ行フ者ハ其ノ抵當權ノ登錄ニ其ノ代位ヲ附記スルコトヲ得

第二十五條 抵當權者ハ鐵道財團ノ代價ヲ以テ辨濟ヲ受ケサル債權ノ部分ニ付テノミ他ノ財產ヲ以テ辨濟ヲ受クルコトヲ得

前項ノ規定ハ鐵道財團ノ代價ニ先チテ他ノ財產ノ代價ヲ配當スヘキ場合ニハ之ヲ適用セス但シ他ノ債權者ハ抵當權者ナシテ前項ノ規定ニ從ヒ辨

濟ヲ受ケシムルカ爲之ニ配當スヘキ金額ノ供託ヲ請求スルコトヲ得

第二十六條 政府カ鐵道及附屬物件ヲ買上ケタル場合ニ於テ抵當權設定後二十箇年又ハ据置年限ヲ經過シタルトキハ抵當附債務ヲ辨濟スルコトヲ得但シ少クトモ一箇年前ニ豫告スヘシ

第二章 登錄

第二十七條 鐵道財團ニ關スル登錄ヲ爲ス爲主務官廳ニ鐵道抵當原簿ヲ備

鐵道抵當原簿ハ一箇ノ鐵道財團ニ付一用紙ヲ設ク

第二十八條 登錄ハ本法ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外當事者ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

第二十九條 抵當權設定ノ登錄申請書ニハ左ノ書面ヲ添附スヘシ

一 抵當權ノ設定ニ關スル證書

二 鐵道財團目錄

當事者ハ抵當權設定認可ノ申請書ニ添附シタル鐵道財團目錄ヲ前項第二號ノ書面トシテ引用スルコトヲ得

第一項第二號ノ書面ハ第二以下ノ順位ノ抵當權設定ノ登錄申請書ニハ之ヲ添附スルコトヲ要セス

第三十條 抵當權設定ノ登錄ハ鐵道抵當原簿ニ左ノ事項ヲ記載スルニ依リテ之ヲ爲ス

一 第七條第二項第一號乃至第五號ニ掲ゲタル事項

二 免許ニ附シタル條件

三 抵當權ノ設定シタルコト

四 抵當權設定認可ノ年月日

五 登錄ノ年月日

第七條第二項第一號及前項第二號ニ掲ゲタル事項ハ第二以下ノ順位ノ抵當權ニ付テハ之ヲ登錄スルコトヲ要セス

第三十一條 登錄シタル事項ニ變更ヲ生シ又ハ其ノ事項消滅シタルトキハ當事者ハ遲滯ナグ變更又ハ消滅ノ登錄ヲ申請スヘシ

前項ノ申請書ニハ變更又ハ消滅ノ事由ヲ記載シ之ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

變更又ハ消滅カ主務官廳ノ命令又ハ認可ニ因リテ生シタル場合ニ於テハ

前項ノ證明書ハ之ヲ添附スルコトヲ要セス

第三十二條 同一ノ債權ノ擔保トシテ數箇ノ鐵道財團ノ上ニ抵當權ヲ設定シタル場合ニ於テハ其ノ各鐵道財團ノ用紙ニ他ノ鐵道財團ヲ表示シ之ト共ニ抵當權ノ目的タル旨ヲ記載スヘシ

他人鐵道財團ニ關スル變更又ハ消滅ノ登錄カ前項ノ記載ヲ變更スルコトヲ要スルニ至リタルトキハ其ノ記載ニ變更ヲ附記シ他ノ鐵道財團ニ關スル消滅ノ登錄カ前項ノ記載ヲ要セサルニ至リタルトキハ其ノ記載ヲ抹消スヘシ

第三十三條 鐵道抵當原簿ニ抵當權ノ設定ヲ登錄シタルトキハ鐵道財團目錄ニ爲シタル記載ハ登錄ト同一ノ效力ヲ生ス

第三十四條 鐵道財團目錄ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シ又ハ其ノ事項消滅シタルトキハ會社ハ遲滯ナク其ノ旨ヲ届出ヘシ

前項ノ届書ハ鐵道財團目錄ニ編綴スルニ依リテ前條ノ效力ヲ生ス

第三十五條 一用紙ノ抵當權ノ登錄カ全部抹消セラレタルトキハ主務官廳ハ其ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

第三十六條 左ノ場合ニ於テハ主務官廳ハ直ニ其ノ旨ヲ管轄登記所ニ通知スヘシ但シ第二號ノ場合ニ於テハ新ナル管轄登記所ニノミ通知スヘシ

第一順位ノ抵當權ノ設定ヲ登錄シタルトキ

二 不動產ニ關スル權利カ新ニ鐵道財團ニ屬シタルトキ

三 鐵道財團ノ用紙ヲ閉鎖シタルトキ

前項第一號又ハ第三號ノ場合ニ於テハ主務官廳ハ直ニ官報ヲ以テ其ノ旨ヲ公告スヘシ

第三十七條 登記官吏カ前條第一號又ハ第二號ノ通知ヲ受ケタルトキハ第三號ノ通知ヲ受タル迄ハ鐵道財團ノ所有者ニ屬スルモノニ付所有權以外

ノ物權、質借權又ハ差押、假差押若ハ假處分ノ登記ヲ爲スコトヲ得ス但シ所有權以外ノ物權、質借權又ハ差押、假差押若ハ假處分ノ目的タルモ

ノカ主務官廳ノ證明書ニ依リ鐵道財團ニ屬セサルコト明白ナルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三十八條 何人ト雖鐵道抵當原簿及鐵道財團目錄ノ閱覽ヲ請求シ又ハ手數料ヲ納付シテ鐵道抵當原簿ノ謄本若ハ抄本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

手數料ノ外郵送料ヲ納付シテ鐵道抵當原簿ノ謄本又ハ抄本ノ送付ヲ請求

スルコトヲ得

第三十九條 鐵道抵當原簿ノ調製、鐵道財團目錄ノ様式其ノ他登錄ニ關スル細則ハ主務大臣之ヲ定ム

第三章 強制競賣及強制管理

第四十條 鐵道財團ニ對スル抵當權ノ強制執行ハ強制競賣又ハ強制管理ヲ依リテ之ヲ爲ス

抵當權者ハ自己ノ選擇ニ依リ前項ニ掲ケタル一箇ノ方法ヲ以テ又ハ二箇ノ方法ヲ併セテ強制執行ヲ爲スコトヲ得

第四十一條 抵當證書又ハ信託證書及之ニ記載シタル事項ヲ變更スル契約證書ハ強制執行ニ關シテハ公證人ノ作成シタル債務名義ト看做ス但シ其ノ執行力アル正本ハ主務官廳ノ官吏之ヲ付與ス

第四十二條 強制執行ハ鐵道財團ノ所有者タル會社ノ本店所在地ヲ管轄スル區裁判所ノ管轄ニ專屬ス

第四十三條 強制競賣ノ申立ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

申立書ニハ左ノ事項ヲ記載シ申立人又ハ其ノ代理人之ニ署名捺印スヘシ

一 債務者タル會社及鐵道財團ノ所有者タル會社ノ商號及其ノ本店ノ所在地

二 競賣ニ付スヘキ鐵道財團ノ表示

三 競賣ノ原因タル事由

四 年月日

五 裁判所

申立書ニハ執行力アル正本ノ外鐵道抵當原簿ノ謄本ヲ添附スヘシ但シ強制管理ノ開始アリタル場合ニ於テハ鐵道抵當原簿ノ謄本ヲ添附スルコトヲ要セス

第四十四條 強制競賣ノ申立ハ競落期日迄ハ競買人ノ同意アル場合ニ限り之ヲ取下クルコトヲ得

第四十五條 競賣手續ノ開始ハ決定ヲ以テ之ヲ爲ス

開始決定ニハ申立人ノ名稱、住所及第四十三條第二項第一號乃至第四號ニ掲ケタル事項ヲ記載シ決定ヲ爲シタル判事之ニ署名捺印スヘシ

第四十六條 裁判所カ競賣手續開始ノ決定ヲ爲シタルトキハ直ニ鐵道抵當原簿ニ競賣申立ノ登錄ヲ爲スヘキ旨ヲ主務官廳ニ嘱託スヘシ

主務官廳ニ於テ前項ノ嘱託ヲ受ケタルトキハ直ニ登録ヲ爲シ其ノ旨ヲ裁判所ニ通知スヘシ

第四十七條 裁判所カ競賣手續開始ノ決定ヲ爲シタルトキハ官報ヲ以テ租稅其ノ他ノ公課ヲ主管スル官廳及公署ニ對シ一定ノ期間内ニ鐵道財團ノ所有者ニ對スル權利ノ有無及其ノ限度ヲ申出ツヘキ旨ヲ公告スヘシ

第四十八條 裁判所ハ主務官廳ノ意見ヲ聽キ鑑定人ヲ選定シ競賣ニ付スヘキ鐵道財團ヲ評價セシメ其ノ評價額ヲ以テ最低競賣價額ト爲スヘシ

第四十九條 裁判所ハ競賣期日ヲ定メ官報ヲ以テ之ヲ公告スヘシ前項ノ公告ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 競賣ニ付スヘキ鐵道財團ノ表示

二 競賣期日ノ場所、日時及入札締切ノ時

三 最低競賣價額

四 競落期日ノ場所及日時

五 執行記錄ヲ閲覽シ得ヘキ場所

第五十條 鐵道事業ヲ營ム者ニ非スシテ競賣ニ加入スルニハ競賣ニ付セラレタル鐵道ノ營業ヲ目的トシ會社ヲ發起セムトスル者七人以上合同スルコトヲ要ス

前項ニ依リ競賣ニ加入スル者ハ競買ノ申込ニ關シテハ連帶シテ其ノ責ニ任ス

第五十一條 前條第一項ニ依リ競賣ニ加入スル者ハ競買ノ申込ト共ニ保證トシテ最低競賣價額百分ノ五ニ相當スル金額ヲ現金又ハ有價證券ヲ以テ供託スヘシ

前項ノ規定ハ競買人ニシテ抵當權者カ之ニ加ハルモノニ付テハ其ノ債權額カ最低競賣價額ノ百分ノ五以上ニ相當スル場合ニ限リ之ヲ適用セス

第五十二條 競賣ハ入札ノ方法ヲ以テ之ヲ行フ

第五十三條 裁判所ハ競買人ノ面前ニ於テ入札ヲ開封スヘシ

競落ト爲ルヘキ同價額ノ入札二箇以上アルトキハ裁判所ハ同價額ノ競買人ナシテ直ニ再度ノ入札ヲ爲サシムヘシ

再度ノ入札ヲ爲スモ仍同價額ノ入札アルトキハ裁判所ハ直ニ抽籤ヲ以テ

最高價競買人ヲ定ムヘシ

第五十四條 競賣ニ加入スルコトヲ得サル者ノ爲シタル入札ハ無效トス

第五十五條 競賣期日ニ於テ入札ナキトキ、許スヘキ入札ナキトキ又ハ最低競賣價額ニ達スル入札ナキトキハ裁判所ハ職權ヲ以テ更ニ競賣期日ヲ得

前項ノ場合ニ於テ裁判所ハ鑑定人ノ意見ヲ聽キ最低競賣價額ヲ低減スルコトヲ得

第五十六條 入札ハ之ヲ變更シ又ハ取消スコトヲ得ス

入札ハ其ノ入札ヲ爲シタル競買人以外ノ者ニ競落ヲ許ス決定カ確定シタルトキ、競落ヲ許ササル決定カ確定シタルトキ又ハ競落ヲ爲サスシテ競賣手續ヲ終了シタルトキハ其ノ效力ヲ失フ

第五十七條 裁判所ハ最高價競買人ノ名稱及其ノ競買價額ヲ表示シ競賣ノ終局ヲ告知スヘシ

第五十八條 裁判所ハ競賣ニ關スル調書ヲ作成シ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 競賣ニ付セラレタル鐵道財團ノ表示

二 競賣申立人ノ表示

三 入札及開札ノ日時

四 總テノ競買價額及競買人ノ名稱、住所又ハ入札ナキコト、許スヘキ入札ナキコト若ハ最低競賣價額ニ達スル入札ナキコト並第五十三條

第二項又ハ第三項ノ手續ヲ爲シタルコト

第五 競賣ノ終局ヲ告知シタル日時並最高價競買人ノ名稱及其ノ競買價額

第五十九條 裁判所ハ競落期日ニ出頭シタル債務者、鐵道財團ノ所有者、抵當權者及競買人ニ競落ノ許可ニ付陳述ヲ爲サシムヘシ

第六十條 強制競賣申立ノ取下若ハ強制執行ノ取消アリタル場合又ハ第

四十八條乃至第五十四條若ハ第五十七條ノ規定ニ違反シテ競賣ヲ爲シタル場合ニ限リ債務者、鐵道財團ノ所有者、抵當權者又ハ競買人ハ競落ノ許可ニ付異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第六十一條 裁判所ハ異議ノ申立ヲ正當トスル場合ニ於テ更ニ競賣ヲ許スヘキトキハ職權ヲ以テ競賣期日ヲ定ムヘシ

前項ニ依リ競賣期日ヲ定ムル場合ノ外競落ノ許否ハ決定ヲ以テ之ヲ言渡スヘシ

第六十二條 競落ノ許可ニ付異議ノ申立ヲ爲シタル者ハ第六十條ニ掲ケタル理由アル場合ニ限リ競落ヲ許ス決定ニ對シ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

競落期日ニ出頭シ競落ノ許可ニ付異議ノ申立ヲ爲ササル者ハ競落ヲ許サ
サル理由ナキ場合ニ限り競落ヲ許ササル決定ニ對シ即時抗告ヲ爲スコト
ナ得

抗告ハ執行停止ノ效力ヲ有ス

第六十三條 裁判所ハ競落ニ關スル調書ヲ作成スヘシ

第六十四條 競落ヲ許ス決定カ確定シタルトキハ裁判所ハ其ノ決定ノ謄本
ヲ主務官廳ニ送付スヘシ

第六十五條 競落代金ハ競落ヲ許ス決定カ確定シタル日又ハ本免許ヲ受ク
ルコトヲ要スル者ニ在リテハ本免許ヲ受ケタル日ヨリ一週間以内ニ之ヲ
裁判所ニ支拂フヘシ但シ債權者カ競落人タル場合ニ於テハ自己カ競落代
金中ヨリ受取ルヘキ金額ヲ控除シ其ノ殘額ノミヲ支拂フヲ以テ足ル

第六十六條 競落代金ノ支拂アリタルトキハ競賣ニ付セラレタル鐵道財團
ニ關スル權利ハ競落人ニ、競落人力カ第五十條第一項ニ依リ競賣ニ加入シ
タル者ナルトキハ其ノ競落人ニ依リテ發起セラレタル會社ニ移轉ス
抵當權ハ前項ニ依リ鐵道財團ニ關スル權利カ移轉シタルトキニ消滅ス

第六十七條 本免許狀ノ下付ナキトキ、第七十三條ノ期間内ニ本免許ノ申
請ナキトキ又ハ第六十五條ノ期間内ニ競落代金ノ支拂ナキトキハ裁判所
ハ職權ヲ以テ競落ヲ許ス決定ヲ取消シ更ニ競賣期日ヲ定ムヘシ

前項ニ依リ競落ヲ許ス決定カ取消サレタルトキハ本免許ハ取消サレタル
モノトス

競落人ハ新競賣ニ加入スルコトヲ得ス且新競賣ニ於ケル競落代金カ最初
ノ競落代金ヨリ少ナキトキハ其ノ不足額及手續ノ費用ヲ賠償スヘシ
第六十八條 裁判所ハ競落代金ノ中ヨリ順次ニ競賣ノ費用及租稅其ノ他ノ
公課ヲ控除シ其ノ殘額ハ抵當權ノ順位ニ從ヒ之ヲ抵當權者ニ配當シ仍殘
餘アルトキハ之ヲ鐵道財團ノ所有者ニ交付スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ裁判所ハ其ノ旨ヲ主務官廳ニ通知シ競賣申立ノ登錄
ノ抹消ヲ囑託スヘシ

主務官廳ニ於テ前項ノ囑託ヲ受ケタルトキハ左ノ手續ヲ爲スヘシ
一 第四十六條第二項ニ依リテ爲シタル登錄及抵當權ノ登錄ヲ抹消スル
コト

二 競落ヲ許ス決定アリタルコトヲ管轄登記所ニ通知シ競落人又ハ競落
コト

人ニ依リテ發起セラレタル會社カ取得シタル不動產ニ關スル權利ノ
登記並第十一條第二項ニ依リ效力ヲ失ヒタル登記ノ抹消ヲ囑託スル
コト

第六十九條 競落ヲ爲サスシテ競賣手續ヲ終了シタルトキハ裁判所ハ其ノ
旨ヲ主務官廳ニ通知シ競賣申立ノ登錄ノ抹消ヲ囑託スヘシ

主務官廳ニ於テ前項ノ囑託ヲ受ケタルトキハ第四十六條第二項ニ依リテ
爲シタル登錄ヲ抹消スヘシ

第七十條 裁判所ハ二回以上競賣期日ヲ開始シタルモ入札ナキトキ、許
スヘキ入札ナキトキ又ハ最低競賣價額ニ達スル入札ナキトキハ抵當權者
ノ同意アル場合ニ限り競賣ニ付シタル鐵道財團ヲ箇箇ノモノトシテ競賣
ニ付スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ裁判所ハ抵當權者ノ意見ヲ聽キ鐵道財團ニ屬スルモノ
ヲ分割シテ競賣ニ付スルコトヲ得

第七十一條 前條ノ競賣ニ關シテハ第四十八條、第四十九條、第五十二條
乃至第六十六條、第六十七條第一項、第三項、第六十八條及第六十九條
ノ規定ヲ準用ス

競買人ハ競買ノ申込ト共ニ保證トシテ最低競賣價額百分ノ五ニ相當スル
金額ヲ現金又ハ有價證券ヲ以テ供託スヘシ

第七十二條 競落人力カ第五十條第一項ニ依リ競賣ニ加入シタル者ナルトキ
ハ發起人ト爲リテ會社ヲ設立スヘシ

第七十三條 競落人ニ依リテ發起セラレタル會社又ハ競落人タル會社ハ競
落ヲ許ス決定カ確定シタル日ヨリ三箇月内ニ本免許ヲ申請スヘシ

第七十四條 競落人ニ依リテ發起セラレタル會社カ本免許ヲ申請スルニハ
左ニ掲タル書類ヲ添附スヘシ

一定款

二 發起人ニ於テ株式ノ總數ヲ引受ケタルトキハ検査役カ裁判所ニ爲シ
タル報告書ノ謄本及裁判所カ検査役ノ報告ヲ聽キ爲シタル決定ノ謄

役又ハ検査役ヨリ創立總會ニ爲シタル報告ノ要領及創立總會ノ議事
及決議ノ要領

一本

三 株主ヲ募集シタルトキハ株式申込證ノ謄本、發起人、取締役、監査

役又ハ検査役ヨリ創立總會ニ爲シタル報告ノ要領及創立總會ノ議事
及決議ノ要領

第七十五條 競落人タル會社カ本免許ヲ申請スルニハ定款ノ變更ト同一方
法ノ決議ニ依ルヘシ

本免許ノ申請ハ定款變更ノ決議認可ノ申請ト共ニ之ヲ爲スヘシ

第七十六條 主務官廳ハ前二條ノ規定ニ依ル申請アリタルトキハ本免許狀
ヲ下付スヘシ

第七十七條 本免許ハ會社カ競落代金ヲ支拂ヒタルトキニ其ノ效力ヲ生ス
本免許カ效力ヲ生シタルトキハ會社ハ原免許ニ屬スル權利及義務ヲ承繼
ス

第七十八條 強制管理ニ付テハ第四十二條、第四十五條乃至第四十七條ノ
規定ヲ準用ス

第七十九條 強制管理開始ノ決定確定シタルトキハ裁判所ハ其ノ決定ノ賠
本ヲ主務官廳ニ送付スヘシ

第八十條 前條決定ノ賠本ノ送付アリタルトキハ主務官廳ハ一人又ハ數
人ノ管理人ヲ選任スヘシ但シ強制管理ノ申立人ハ適當ノ人ヲ推薦スルコ
トヲ得

商事會社ハ管理人タルコトヲ得

第八十一條 主務官廳ハ管理人ヲ監督シ、管理方法ニ付指揮ヲ爲シ且管理
人ニ與フヘキ報酬ノ額ヲ定ムヘシ

主務官廳ハ前項ニ掲ケタル事項ニ付債務者、鐵道財團ノ所有者、抵當權
者及鑑定人ノ意見ヲ聽クコトヲ得

主務官廳ハ管理人ニ擔保ヲ供スヘキコトヲ命シ又ハ之ヲ解任スルコトヲ
得

第八十二條 主務官廳カ管理人ヲ任免シタルトキハ其ノ旨ヲ債務者、鐵道
財團ノ所有者、抵當權者及裁判所ニ通知スヘシ

第八十三條 鐵道財團ノ所有者カ管理人選任ノ通知ヲ受ケタルトキハ直ニ
鐵道財團ヲ管理人ニ引渡スヘシ

管理人ハ鐵道財團ノ所有者ニ對シ管理ニ必要ナル書類其ノ他ノ物ノ引渡
ヲ求ムルコトヲ得

鐵道財團ノ所有者カ前二項ノ引渡ヲ爲ササルトキハ裁判所ハ管理人ノ申
立ニ因リ執達吏ヲシテ其ノ引渡ヲ爲サシムヘシ

第八十四條 強制管理ノ申立人ハ管理人ノ請求ニ因リ管理ノ費用ヲ立替支
ス

辨スヘシ

第八十五條 管理人ハ鐵道財團ノ管理及收益ニ付必要ナル裁判上又ハ裁判
外ノ行爲ヲ爲スヘシ

第八十六條 鐵道財團ノ管理ニ付官廳ニ對スル取締役ノ責任ハ管理人之ヲ
負フ

第八十七條 管理人ハ毎營業年度ノ終ニ於テ鐵道財團ノ收入ヨリ順次ニ管
理ノ費用、管理人ノ報酬及租稅其ノ他ノ公課ヲ控除シ其ノ殘額ヲ抵當權
者ニ交付スヘシ

第八十八條 管理人ハ毎營業年度ノ終ニ於テ計算報告書ヲ主務官廳ニ差出
スヘシ

主務官廳ハ前項計算報告書ノ賠本ヲ債務者、鐵道財團ノ所有者及抵當權
者ニ送付シ且一定ノ期間内ニ異議アラハ之ヲ申出ツヘキ旨ヲ催告スヘシ

前項ノ期間内ニ異議ヲ申出テサリシ者ハ計算ヲ承認シタルモノト看做ス
異議ヲ申出テタル者アリタルトキハ主務官廳ハ管理人ノ陳述ヲ聽キタル
後之ヲ裁定ス此ノ裁定ハ終局トス

第八十九條 管理人ハ前條第二項ノ期間ヲ過キ又ハ前條第四項ノ裁定ヲ經
タル後ニ非サレハ抵當權者ニ對シ配當額ノ交付ヲ爲スコトヲ得ス
管理人カ配當額ノ交付ヲ爲シタルトキハ抵當權者ノ名稱及配當額ヲ主務
官廳及裁判所ニ通知スヘシ

第九十條 強制管理ノ取消ハ裁判所ノ決定ヲ以テ之ヲ爲ス

強制管理ノ申立ヲ爲シタル抵當權者カ辦濟ヲ受ケタルトキハ裁判所ハ強
制管理ノ取消ヲ命スヘシ

強制管理ノ申立人カ管理費用ノ立替支辨ヲ爲ササルトキハ裁判所ハ管理
人ノ申立ニ因リ強制管理ノ取消ヲ命スルコトヲ得

第九十一條 前條第二項ノ場合ニ關シテハ第六十八條第二項及第三項ノ規
定ヲ準用ス

前項ノ場合ヲ除クノ外強制管理ノ取消ニ關シテハ第六十九條ノ規定ヲ準
用ス

第九十二條 左ノ場合ニ於テハ取締役、又ハ管理人ヲ十圓以上千圓以下ノ
過料ニ處ス

第四章 罰則

一 本法ニ定メタル裁定ヲ遵守セサルトキ

二 第九條ノ規定ニ違反シタルトキ

三 第二十條又ハ第二十一條ノ催告ヲ爲ササルトキ

四 登錄ニ關シ不正ノ申請ヲ爲シタルトキ又ハ第三十一條ノ登錄ノ申請ヲ爲ササルトキ

チ爲ササルトキ

五 鐵道財團目錄ニ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ第三十四條ノ届出ヲ爲ササルトキ又ハ不正ノ届出ヲ爲シタルトキ

六 管理方法ニ付主務官廳ノ命令ニ違反シタルトキ

七 第八十八條ノ計算報告書ヲ差出ササルトキ又ハ不正ノ報告ヲ爲シタルトキ

八 配當額ノ交付ヲ爲ササルトキ又ハ第八十七條若ハ第八十九條第一項ノ規定ニ違反シテ配當額ノ交付ヲ爲シタルトキ

九 第八十九條第二項ノ通知ヲ爲ササルトキ

第九十三條 非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前條ニ定メタル過料ニ之ヲ準用ス

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

〔子爵會我祐準君演壇ニ登ル〕

○子爵會我祐準君 本案ハ此理由書ニモゴザイマス通り、又過日遞信大臣ガ此席ニ於テ陳述サレタル如ク、私設鐵道ヲ抵當ト致シマシテ債權ヲ起スニ便利ナ與ヘル目的ヲ以テ特別ナル法ヲ設ケマシタノデアリマス、實ニ此名稱ノ如ク即チ鐵道抵當法案デアリマス、デ現在ノ法律デハ鐵道ナ一纏メニシテ抵當ニスルコトガ到底出來マセヌ、動產モアレバ不動產モ鐵道ノ上ニハ交ツテ居リマス、又土地ナラ土地ダケナ抵當ニスルコトが出來マセウガ、ソレヲ抵當ニ引取ッタ所デ、ソレデ營業が出來ルヤウナモノデハナクテ、唯今ノ法ガ纏マッテ居ラヌガ爲ニ抵當トシテ價ノ無イモノデアリマス、又非常ニ面倒ナモノデアリマス、是等ガ大ナル不便デアリマスニ依テ、此便利ヲ與ヘルト云フノガ此精神デアリマス、即チ鐵道ヲ抵當トシテ借金ヲスルニ便利ヲ與ヘルト云フ法ナノデアリマス、我國ノ今日ノ時勢ニ於キマシテハ、此法案ヲ必要ナリト認メテ提出サレタ趣ハ理由書ニモ書イテアル通リデアリマスガ、又委員ニ於キマシテモ此提出ノ理由ニ對シマシテハ始メヨリ終マデ一人モ此精神

即チ目的タル所ニ對シテ反対者ハゴザイマセヌデアリマシタ、此點ハ至ツテ無事デアリマシタ、即チ此案ヲ否決スベキヤ可決スベキヤト云フコトハ一度モ議論ニハ出マセヌデアリマシタ、併ナガラ委員會ハ近來稀ナル盛ナコトデアリマシタ、其盛ナル議論ト申シマスモノハ委員同士ノ討論デハゴザイマセヌデ、寧ロ多クノ委員ハ或ル點ニ向ツテハ殆ド初メヨリ一致シテ居リマシタ、

委員ノ多數ト政府委員トノ對抗ト云フヤウナ勢ノ盛ナコトデゴザイマシタ、委員會モ十數會ノ多キニ涉リマシテ而シテ後漸ク決了イタシマシタ、斯ク長ク委員會ヲ開キマシタ其結果トシテ茲ニ報告シマシタ如キ非常ナ大修正ニナスガ、原案ノ第七條、是ニ「豫定登記」ト云フコトガアリマス、此豫定登記ノ事ニ付キマシテ、初メノ三四回ト云フモノハ豫定登記ノコトニ付キマシテノミノ質問デアリマシタ、否、議論七分ト云フ難問、詰問トモ誤リ認メラルベキ程ノ大質問デアリマシタ、之ガ爲ニ多クノ時間ヲ費シマシタ、終ニ政府ハ此主張ヲ撤回サレマシタ、豫定登記ノ主張ヲ撤回サレマシテ、是ニ於テ委員會ハ漸次ニ摶取ルヤウナコトニナリマシタ、併シ此法案ハ條數モ澤山ゴザイマシテ、一種特別ナモノデゴザイマシテ、登錄ノ章ガアリ、又ハ競賣ニ係ル章ガアルト云フコトデ、此案ノ中ニハ至ル所多少ノ議論ハアリマシタ、又相應ノ説明モアルシ相應ノ研究モ致シマシテ至ル所多少修正サレマシタ、即チ此朱字ノ如キ修正ニ各條ナリマシタノデアリマス、要シマスルニ修正ノ大體ト申シマスモノハ成ルベク手數ヲ少クシテ此法案ノ精神ヲ貫徹スルヤウナ方法ヲ選ンダノデアリマス、又ソレト同時ニ申スマデモナイコトデアリマスガ、此朱字ノ體裁ナドニモ有力ナル委員諸君ハ最モ熱心ニ注意ナサレテ御修正ニナリマシタ次第デアリマス、本員ハ所勞ノ爲ニ此委員會ノ中間ニ於テ三四回缺席ナ致シマシタ、ソレ故ニ其缺席中ノコトハ能ク存ジマセヌガ、若シモ漏レガアリマシタナラバ副委員長ヨリ其不足ヲ御補ヒ下サルコトト存ジマス、今此修正ノ各條項ニ付キマシテ大體ナ陳述スベキガ當然デハアリマセウ、當然デハアリマセウガ、之ヲ一々朱書ノ所ナ申スノモ、ナカク容易ナコトデモアリマセズ、又此朱書ノミガ説明サレテモ黒字ノ所ト相聯關シタ所ガ徹底シテ能ク分ルト云フコトニモナリマスマイト考ヘマス、而シテ此大ナル修正ハ委員ノ名ナ以テ委員會ニ提出サレタニハ相違アリマセヌガ、其實再三再四協議ノ上、此修正ハ全ク政府ノ贊同ヲ得マシタ次第デアリマス、右ニ依ツテ此法案

ニ付テ澤山御不審モアリマセウガ、ソレハ赤イ所ノミテ説明シテモ效モ無カ
ラウト思ヒマスニ依テ、政府モ贊成シテ居ルコトデアリマスニ依テ、是ハ東

ネテ御質問ニナラネバ明瞭ニナラヌト思ヒマスカラ、不審ノ廉ナ舉ゲテ御質
問ニナサマシタナラバ、政府委員ヨリモ答辯ガアリ、又委員諸君ノ中デ委シ

イ方ガ、本員ガコヘデ朱イ字ヲ拾ッテ説明スルヨリハ明瞭ナ答ガ出來ルト思
ヒマスルカラ、本員ハ委員會ノ經過ノ大體ノミチ報告イタシマシテ、修正ノ

箇條ニ付テハ御報告致サヌ心得デゴザイマス、大體右ノ次第デアリマスル
ニ依ッテ、諸君ニ於テモ十分ニ御討議ノ上願ハクハ本案ノ通過ニナラムコト

ナ希望イタシマスノデアリマス

○議長(公爵徳川家達君) 別ニ御發議ガゴザイマセネバ本案ナ第二讀會ニ移
ズベキヤ否ヤノ決ナ採リマス、第二讀會ニ移スベシトスル諸君ハ起立ナ請ヒ
マス

起立者 多數

○議長(公爵徳川家達君) 過半數ト認メマス

○子爵曾我祐準君 直チニ第二讀會ヲ開カレムコトナ希望イタシマス

○子爵三島彌太郎君 贊成

○議長(公爵徳川家達君) 曾我子爵ヨリ直チニ第二讀會ヲ開クト云フ說が出

マシタ、此說ニ御異議ハゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼ブ者多シ〕

○議長(公爵徳川家達君) 然ラバ直チニ第二讀會ヲ開キマス、第一讀會ニ
問題ニ供シマス、第一章全部、委員會報告通り御異存ゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼ブ者多シ〕

○議長(公爵徳川家達君) 然ラバ委員會報告ノ通り決シマス、次ハ第二章全
部ニ問題ニ供シマス、……第二章全部、委員會報告通り御異存ゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼ブ者多シ〕

○議長(公爵徳川家達君) 然ラバ委員會報告通り決シマス、次ハ第三章全
部ニ問題ニ供シマス……是モ委員會報告通り御異議ハゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼ブ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 然ラバ委員會報告通り決シマス、次ハ第四章全
部ニ問題ニ供シマス……特別委員會報告ノ通り御異存ゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼ブ者アリ〕

〔「異議ナシト呼ブ者アリ」〕

〔「贊成ト呼ブ者多シ」〕

○議長(公爵徳川家達君) 然ラバ是ニ於テ第二讀會ヲ開キマス、……第二讀會
ノ決議案ノ通り御異議ハゴザイマセヌカ

〔「異議ナシト呼ブ者アリ」〕

○議長(公爵徳川家達君) 然ラバ是ニ於テ第二讀會ヲ終リマシタ、次ハ議
事日程第二ニ移リマス、遠洋漁業獎勵法改正法律案第一讀會ノ續、特別委員長
報告

〔「異議ナシト呼ブ者アリ」〕

右可決スヘキモノナリト議決ス依テ及報告候也

明治三十八年二月十五日

貴族院議長公爵徳川家達殿

右特別委員長

侯爵細川護成

〔村田保君演壇ニ登ル〕

○村田保君 本日ハ委員長所勞ニ付キマシテ本員ヨリ委員會ノ結果ヲ御報告
ニ及ビマス、委員會ニ於キマシテ本案ニ付キマシテ逐條審議ヲ逐ヶマス際ニ、
質問ハ種々ゴザイマシタガ、結局今日ノ場合、遠洋漁業ノ獎勵發達ヲ計ルコ
トハ最モ必要ノコトデゴザイマスガ、現今ノ獎勵法ニ於キマシテハ、段々其
不完全ナ點ガゴザイマスシ、其目的ヲ達スルコトガ出來マセヌ故ニ、此改正案
が出来シタ澤山御不審モアリマセウガ、ソレハ赤イ所ノミチ説明シテモ效モ無カ
ラウト思ヒマスニ依テ、政府モ贊成シテ居ルコトデアリマスニ依テ、是ハ東
ネテ御質問ニナラネバ明瞭ニナラヌト思ヒマスカラ、不審ノ廉ナ舉ゲテ御質
問ニナサマシタナラバ、政府委員ヨリモ答辯ガアリ、又委員諸君ノ中デ委シ
イ方ガ、本員ガコヘデ朱イ字ヲ拾ッテ説明スルヨリハ明瞭ナ答ガ出來ルト思
ヒマスルカラ、本員ハ委員會ノ經過ノ大體ノミチ報告イタシマシテ、修正ノ
箇條ニ付テハ御報告致サヌ心得デゴザイマス、大體右ノ次第デアリマスル
ニ依ッテ、諸君ニ於テモ十分ニ御討議ノ上願ハクハ本案ノ通過ニナラムコト
ナ希望イタシマスノデアリマス

會一致ヲ以チマシテ原案ノ通リニ可決ニナリマシタ譯デゴザイマス、故ニ願

ハクハ諸君ニ於カレマシテモ速ニ御贊成ニナラムコトナ望ミマス、尙各條ニ

付キマシテハ御質問ガゴザイマシタナラバ其時ニ御答ナ致シタイト云フ考デ

ゴザイマスカラ、今日ノ場合至ツテ簡單ニ報告ナ致シテ置キマス

○田中芳男君　此案ニ付テハドナタカラモ御質問ノ無イ所ナ見レバ別ニ御議

論モ無イコトト存ジマス、而シテ此案ハ政府案ニ聊カ衆議院デ修正ヲ加ヘタ

ノミデゴザイマシテ、殆ド政府原案デゴザイマス、故ニ是ハ速ニ可決イタシ

タイト希望イタシマスカラシテ、讀會省略ノ動議ヲ提出イタシマス

〔贊成〕ト呼ブ者多シ

○議長（公爵徳川家達君）　田中君ノ讀會省略ノ動議ニハ定規ノ贊成者ガアツ

タト認ノマス、讀會省略ノ動議ニ贊成ノ諸君ハ起立ヲ請ヒマス

起立者　多數

○議長（公爵徳川家達君）　三分ノ二以上ト認ノマス、委員會ノ報告通リデ御

異議ハゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼ブ者アリ

○議長（公爵徳川家達君）　然ラバ報告通リ可決

○議長（公爵徳川家達君）　然ラバ報告通リ可決

○議長（公爵徳川家達君）　次ハ議事日程第三ニ移リマス、明治三十七年勅令第

二百二十五號承諾ヲ求ムルノ件、會議、特別委員長報告

○伯爵坊城俊章君　此案ハ勅令二百二十五號ト俘虜處罰ニ關スル法律案トニ

ツナ同一委員ニ付セラレマシテゴザイマスカラ、便宜上ニツナ束ネマシテ御

報告ナ致シタウゴザイマス

○議長（公爵徳川家達君）　宜シウゴザイマス

明治三十七年勅令第二百二十五號
右承諾スヘキモノナリト議決ス依テ及報告候也

明治三十八年二月十五日

右特別委員長

伯爵坊城俊章

貴族院議長公爵徳川家達殿

俘虜處罰ニ關スル法律案

右可決スヘキモノナリト議決ス依テ及報告候也

明治三十八年二月十五日

右特別委員長

伯爵坊城俊章

貴族院議長公爵徳川家達殿

〔伯爵坊城俊章君演壇ニ登ル〕

○伯爵坊城俊章君　諸君、唯今議題ニ上ボリマシタ所ノ明治三十七年勅令第

二百二十五號ノ案ハ其提出ノ理由ハ未ニ示シテアル通りデゴザイマシテ、實

ニ是ハ要用ノ案デアリマスカラ、委員會ニ於キマシテハ種々調査ヲ遂ゲマシ

タ末、全會一致ヲ以テ承認ナ致スコトニ相成リマシタ、極簡單ナモノデゴザ

イマスカラ、尙諸君ニ於キマシテ能ク御審査ノ上、速ニ協賛ナ與ヘラレムコ

トナ希望イタシマス、次ニ俘虜處罰ニ關スル法律案デゴザイマス、是ハ同一

委員ニ付託セラレマシタカラ序デナ以チマシテ東ネテ報告ナ致シマス、是ハ

衆議院提出案デゴザイマスルガ、即チ此勅令二百二十五號ノ案ト少シモ變ツ

タコトモゴザイマセヌ、取りモ直サズ是ハ即チ法律ニシヤウト云フ所ヨリシ

テカラニ是ハ出マシタ譯デ、其外ニ尙其二百二十五號ノ勅令ニ加ヘマスルニ

未項ニ第七條ヲ加ヘマシタノト附則ニ一條ガ加ハリマシタノ差デゴザイマ

シテ、其他ハ二百二十五號ノ勅令ト同様ノモノデゴザイマス、固ヨリ御承知

ノ通り勅令モ兩院デ協賛ナ與ヘマスレバ其效力ハ法律通リノ效力ヲ發生イタ

シマスケレドモ、尙コニ法律トシテ一箇條ヲ加ヘタラバ便宜デアラウト云

フノデ衆議院ハ提出ニナツタノデゴザイマス、此所ヘ第七條ヲ加ヘマシタニ

付キマシテ政府ノ意向ハ如何ト云フコトハ委員會ニ於キマシテ質問ナ致シマ

シタ、所ガ政府ニ於テハ是ガアルノハ大ニ完全ニナツテカラニ愈々全キナ得

ル譯デアルカラ同意ナスルト云フ譯デアリマス、右様ノ次第デアリマスカラ

委員會ニ於テハ全會一致ヲ以テ可決ナ致シマシタ、何卒諸君ニ於カセラレマ

シテモ速ニ可決アラムコトナ希望イタシマス、

○議長（公爵徳川家達君）　別ニ御發言ゴザイマセヌケレバ採決イタシマス、

承諾ヲ與フルト云フコトニ認メテ宜ウゴザイマスカ

○議長（公爵徳川家達君）　然ラバ承諾ヲ與フルト云フコトニ致シマス

〔異議ナシ〕ト呼ブ者アリ

○議長(公爵徳川家達君) 議事日程第四ニ移リマス

○伯爵大原重朝君 此問題ニ付テ御質問ガゴザイマセヌケレバ讀會省略ナ以テ可決アラムコトナ望ミマス

○子爵板倉勝達君 贊成

○伯爵柳原義光君 贊成

○伯爵正親町實正君 贊成

○男爵松平正直君 贊成

〔其他賛成ト呼ブ者多シ〕

○議長(公爵徳川家達君) 大原伯爵ノ讀會省略ノ動議ニハ定規ノ賛成者ガアダト認メマス、讀會省略ニ賛成ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○議長(公爵徳川家達君) 三分ノ二以上ト認メマス、原案御異存ハゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼ブ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 然ラバ是ニ於テ原案可決

○議長(公爵徳川家達君) 次ニ議事日程第五ニ移リマス、裁判所構成法中改正法律案、第一讀會

裁判所構成法中改正法律案

右本院提出案及送付候也

明治三十八年二月十四日

貴族院議長公爵徳川家達殿

裁判所構成法中左ノ通改正ス

第十四條第一號中「百圓」ヲ「二百圓」ニ改ム

第十六條第一號中「二百圓」ヲ「二百圓」ニ改ム

第十六條ノ一 区裁判所ハ刑事ニ於テ左ノ事項ニ付裁判權ヲ有ス但シ第二以下ニ記載シタル罪ハ豫審ヲ經サルモノニ限ル

第一 違警罪

第二 窃盜ノ罪

第三 二百圓ナ超過スル罰金ヲ併科又ハ附加セサル本刑六箇月以下

ノ禁錮ニ該ル罪

第四 本刑二百圓ヲ超過セサル罰金ニ該ル罪

第十六條ノ二 司法大臣ハ地方裁判所ノ管轄區域内ノ一ノ區裁判所ノ管轄ニ屬スル刑事ノ事務ノ全部又ハ一部分ヲ其ノ地方裁判所ノ管轄區域内ノ他ノ區裁判所ヲシテ取扱ハシムルコトヲ得

附則

此ノ法律施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
此ノ法律施行前地方裁判所ニ提起シタル訴訟ハ此ノ法律ニ依リ區裁判所ノ

權限ニ屬スルモノト雖モ地方裁判所之ヲ裁判スヘシ

此ノ法律施行ノ際ニ限り裁判所構成法第七十三條中轉所ニ關スル規定ヲ適用セス

○奥山政敬君 チヨット政府委員ニ伺ヒマスガ、民事ノ二百圓以上ト二百圓以下トノ件數ノ比例ハドウ云フ割合ニナツテ居リマセウカ、ソレカラ輕罪上最モ多イ所ノ犯罪ハ竊盜デアリマスルガ、他ノ總テノ輕罪事件トノ件數ノ比

例ハドウ云フコトニナツテ居リマスカ

〔政府委員河村讓三郎君演壇ニ登ル〕

○政府委員(河村讓三郎君) 御答ナ致シマス、二百圓以上ノ事件數ト其以下ノ事件數トハ唯今專ラ取調中デアリマスカラ委員會ニ於テ申上グルコトニ願ヒマス、又刑期六箇月以上ト以下トノ件數モ同様デアリマスカラ委員會デ申

上グルコトニ願ヒタインデアリマス

○奥山政敬君 マダ御調べガ出來ヌノデスカ

○政府委員(河村讓三郎君) 左様デゴザイマス

○名村泰藏君 本員モ御尋シマスガ、構成法ノ改革ヲナサルト云フコトナチヨイノト承ツテ居リマスガ、全體ノ改正法ハ御出シニナルノデゴザイマスカ、御出シニナラヌノデゴザイマスカ

○政府委員(河村讓三郎君) 構成法全體ノ改正ニ付キマシテハ數年來專ラ調查ナ致シテ居リマスケレドモ、今日未ダ提出ナ致ス時機ニ至リマセヌノデゴザイマス

マスカ

〔異議ナシト呼ブ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 然ラバ議長ガ選定イタシマス

○議長(公爵徳川家達君) 德川伯爵ノ讀會省略ニ動議ニハ定規ノ贊成者ガア

スル法律案、第一讀會ノ續、特別委員長報告

戦時補助船舶獎勵ニ關スル法律案
右可決スヘキモノナリト議決ス依テ及報告候也

明治三十八年二月十六日

○議長(公爵徳川家達君) 德川伯爵ノ讀會省略ニ贊成ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス
ツタト認メマス、讀會省略ニ贊成ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス
セヌカ

○議長(公爵徳川家達君) 然ラバ原案可決
起立者 多數
〔異議ナシト呼ブ者アリ〕

右特別委員長

伯爵徳川 達孝

貴族院議長公爵徳川家達殿

〔伯爵徳川達孝君演壇ニ登ル〕

○伯爵徳川達孝君 戰時補助船舶獎勵ニ關スル委員會ノ經過及結果ヲ御報道

申シマス、此委員會ハ昨日開キマシテ正副委員長ノ選舉ヲ行ヒ引續イテ會議

ヲ開キマシタ、委員會ニ於キマシテハ十分ニ審議ヲ盡シマシタ所、此案ハ今

此所デ申スマデモナク請君ノ御承知ノ通リ本院カラノ提出デアリマシテ、委

員ノ中ニハ此法律案ヲ提出サレタ所ノ御方モ居ラレルコトデアル、故ニ其御

方カラ詳細ノ説明モゴザイマシタ、此案ノ理由ハ理由書ニモゴザイマスコト

故ニ、本員ガ喋々申サズトモ既ニ御承知ノコトデアッテ、現今ノ航海獎勵法

ニハ此獎勵金ヲ與ヘルノガ商事會社ノミニシテ他ノ公益團體タル所ノ法人ノ

所有ニ屬スル船舶ニハ獎勵金ヲ與ヘヌト云フコトデアルカラ大ニ不備デ、ソ

レ故ニ本案ヲ提出シタ譯デアリマス、委員會ニ於キマシテハ適當ナル所ノ案ト

認メマシタ、併ナガラ政府ノ方ノ方針ハ如何ト存ジマシテ政府委員ニ出席ヲ

請ヒマシテ政府ノ意向ヲ尋ネマシタ所ガ、政府ニ於テモ全然同意ト云フコト

デゴザイマス、故ニ委員會ニ於キマシテハ全會一致ヲ以テ可決スベキモノト

議決ニナッタ次第デアリマス、尙終リニ臨ンデチヨット一言申シテ置キマス

ルガ、此案ニ付テ御疑モゴザイマスルナラバ、委員ノ中ニハ提出者ノ御方モ

這入ツテ居ルコトデアリマスカラドウゾ其委員ノ方ヘ御尋ナ願ヒタク存ジマ

ス、此案モ至ツテ簡単ナ案デゴザイマシテ、別段御質疑モゴザイマセヌカラ、

ドウゾ讀會省略ヲ希望イタシマス

○伯爵坊城俊章君 贊成

〔賛成ト呼ブ者多シ〕

治二十七年其ノ墳墓修營費トシテ内帑五拾圓ヲ下賜セラレタル恩典ハ某等深ク感銘スル所ナリ仍テ時局ノ平定ヲ俟チ速ニ神號ヲ賜ヒ前記三功臣ト齊

ク歲時祭祀ノ典ヲ舉ケ以テ

朝廷功臣旌表ノ實ヲ示サレムコトヲ謹ア建議ス

〔男爵北垣國道君演壇ニ登ル〕

○男爵北垣國道君 此建議案ハ故渡邊男爵ガ主トシテ誠意熱心ニ發議サレマシタモノデ、連署諸君ノ御贊成ヲ得マシテ此所ニ提出ニナリマシタ案デアリ

マスガ、渡邊君ハ不幸ニシテ世ヲ去ラレマシタカラ私ガ此所ニ其議案ノ趣意ヲ述ベマシテ諸君ノ御贊成ヲ得タイト考ヘマス、此建議ノ趣意ハ大切ナ問題デハアリマスガ、其趣意ハ誠ニ簡單ナモノデアリマシテ、其大體ヲ申シマスレバ田村將軍ハ紀元以來實ニ國家ニ功勞ノ涯リナイ功德ガアリマスガ、如何ナル譯カ今日マデ我國ノ忠臣ニ對スル所ノ功德ヲ旌表スル所ノ典例ト申シマシテモ宜シウゴザイマスガ、官幣社ニ列セラレテ居リマセヌデゴザイマス、

今日此所ニ提出スル所以ハ其忘レラレテ居リマス所ナ此所ニ喚出シマシテ何トカ官幣社ノ列ニ加ヘラレムコトヲ希望スル次第デアリマス、御承知ノ通りニ田村將軍ハ三帝ニ歷仕サレマシテ東北諸國ヲ平定シテ遂ニ津輕海峽マデ進

マレテ之ヲ平定シ之ヲ開拓シテ遂ニ武德ハ蝦夷、蝦夷、肅慎、汝漢マデモ國威ヲ輝サレタ次第デアリマス、即チ鞣鞞、肅慎、汝漢マデモ國威ヲ承ッテ居リマス、斯ノ如ク功德ノ著シキコトハ私ガ申スマデモナク歴史ノ上デ御承知ノコトデアリマスカラ、何卒此際此案ニ御贊成ヲ下スツテ田村將軍ハ他ノ忠臣烈士ガ功德ヲ旌表サレマシタト同様ニ官幣社ニ列セラル、コトヲ希望イタシマス、宜シク御贊成ヲ願ヒマス

○議長(公爵徳川家達君) 別ニ御發議ガゴザイマセネバ採決イタシマス、建議案ヲ可トスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○議長(公爵徳川家達君) 過半數ト認メマス、是ニ於テ本日ノ議事日程ハ終リマシタガ、裁判所管轄區域變更ニ關スル法律案、政府提出、並ニ土地收用法中改正法律案、衆議院提出案、此第一讀會ヲ本日開イテ御異存ゴザイマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼ブ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 議事日程ノ追加ヲ致スコトニナリマシタ、念ノ爲

二書記官ヲシテ通牒文ノミヲ朗讀イタサセマス

〔小原書記官朗讀〕

裁判所管轄區域變更ニ關スル法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

明治三十八年二月十六日

貴族院議長公爵徳川家達殿

衆議院議長松田正久

〔左ノ議案ハ朗讀ヲ經ザルモ參照ノタメ此ニ載錄ス〕

裁判所管轄區域變更ニ關スル法律案

明治二十三年法律第六十二號裁判所位置及管轄區域表中大阪控訴院管轄若狭、越前、加賀、能登、越中ノ國ヲ名古屋控訴院ノ管轄ニ、備前、備中、美作、因幡、伯耆ノ國ヲ廣島控訴院ノ管轄ニ變更ス

附則

本法ハ明治三十八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十八年三月三十一日以前ニ於テ岡山、鳥取、福井、金澤及富山ノ各地方裁判所ノ爲シタル裁判ニ對スル上訴ハ大阪控訴院之ヲ管轄ス

〔國務大臣波多野敬直君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(波多野敬直君) 本案ハ大阪控訴院ノ管轄中、若狭、越前、加賀、能登、越中ノ五箇國ヲ名古屋控訴院管轄ニ變更イタシマシテ、備前、備中、美作、因幡、伯耆ノ五箇國ヲ廣島控訴院ノ管轄ニ變更スル案デゴザイマス、御承知ノ通リ大阪控訴院ハ是マデハ十四ノ地方裁判所ヲ管轄イタシマシテ其土地ハ即チ五畿内、北陸、南海、山陽、山陰ニ跨ッテ居リマシテ、管轄ハ隨分廣ケアリマス、從テ訴訟事件モ頗ル多數デゴザリマス、其司法行政上ノ監督ニ於キマシテモ甚ダ不便ヲ感ズル次第デアリマス、殊ニ一時ハ此控訴被告人ノ多數ナルガ爲ニ大阪監獄ニ收容スル餘地ガ無クテ各地ニ其儘置イタコトガアルヤウナ次第デゴザイマス、彼是差支ノ點ガゴザイマスカラ斯ノ通りニ改正ヲ致シマシテ又控訴院ノ事務ニ均衡ヲ得セシメマシテ尙益々裁判上ノ進歩改良ヲ圖リタイト云フ案デゴザイマス、ドウカ御協賛アラムコトヲ希望イタシマス

○奥山政敬君 此大阪控訴院管内ノ地方裁判所ヲ他ニ移スト云フ案ノヤウニ承リマシタガ、サウ致シマスルト他ノ控訴院ノ判事トカ或ハ書記トカ云フ者ハソレガ爲ニ増員スルト云フヤウナコトハアリマセヌデアリマセウカ、又此

影響トシテ大阪ノ控訴院ノ如キハ判検事若クハ書記ノ如キ者モ多少ノ人ナ減ズルト云フコトガ生ゼ又ケレバナリマセヌガ、増減シナイデ現員ノ儘デ御差支ナイ御見込デアリマセウカ

〔國務大臣波多野敬直君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(波多野敬直君)此通り管轄ヲ變更イタシマスレバ從ツテ職員ノ變動モ致サナケレバナラヌノデアリマス、併シ控訴院ノ判事ノ全體ニ於キマシテハ格別増減ハ無イト云フ考デアリマス、即チ其大阪カラ名古屋ニ移シマスレバ、名古屋ノ方ニ一部増シマスルカ、或ハ又廣島ニ一部増シマスル位ノコトデゴザイマス、併シソレハ大阪ノ方ニ其一部カ二部が減ツテ參リマスカラ、全體ノ上ニハ格別増減ハ無イ、一二人ハ減ズルカモ知レヌト思ツテ居リマス、マダ其計算ハ確實ノコトナ申上ダルコトハ出來マセヌ

○議長(公爵德川家達君)別ニ御發言ガゴザイマセネバ特別委員ノ選舉ニ移リマス、此特別委員ノ選定モ議長ニ御任セニナリマスカ

〔異議ナシト呼ブ者アリ〕

○議長(公爵德川家達君)然ラバ議長が選定イタシマス

○議長(公爵德川家達君)次ハ土地收用法中改正法律案ノ第一讀會ヲ開キマス、通牒文ヲ朗讀イタサセマス

〔小原書記官朗讀〕

右本院提出案及送付候也

明治三十八年二月十六日

貴族院議長公爵德川家達殿

衆議院議長松田正久

土地收用法中改正法律案

土地收用法中左ノ通改正ス

第十五條第一項ナ左ノ如ク改ム

天災事變ニ際シ若ハ水利上ノ復舊工事ニ關シ急施ヲ要スル事業ノ爲土地
ヲ使用スルトキハ郡市長ハ其ノ事業ノ認定ヲ爲スコトナ得

○議長(公爵德川家達君)別ニ御發言ガゴザイマセネバ特別委員ノ選舉ニ移リマス、此特別委員ノ選定モ議長ニ御任セニナリマスカ

〔異議ナシト呼ブ者アリ〕

○議長(公爵德川家達君)然ラバ議長が選定イタシマス、是デ本日ノ議事ハ終リマシタ、御委託ニ相成リマシタ特別委員ノ氏名ヲ御報告ニ及ビマス、書記官ナシテ朗讀致サセマス

〔仙石書記官朗讀〕

裁判所構成法中改正法律案特別委員

子爵本莊壽巨君

子爵黒田和志君

名村泰藏君

平山成信君

關義臣君

男爵中川興長君

奥山政敬君

馬屋原二郎君

佐藤伊左衛門君

裁判所管轄區域變更ニ關スル法律案特別委員

子爵加納久宜君

子爵新莊直陳君

男爵北垣國道君

柴原和君

男爵藤村紫朗君

男爵高崎安彥君

高木豐三君

兒玉淳一部君

田島竹之助君

土地收用法中改正法律案特別委員

侯爵大炊御門幾麿君

子爵松平乘承君

子爵牧野貞寧君

子爵青木信光君

男爵沖守固君

男爵南岩倉具威君

男爵藤大路親春君

德久恆範君

江角柳四郎君

土地收用法中改正法律案

○議長(公爵德川家達君)明日ハ議案ノ都合ニ依リマシテ休會ヲ致シマス、

次ノ議事日程ハ後ヨリ申上ダマス、本日ハ是デ散會ヲ致シマス

午前十時五十六分散會